

新たな方針を確立

青年
主婦
PAL

青年 60周年事業が教訓に 活動家倍増、部員ふやす

【本部・友成京介】東京 土建青年部は2月24日、第62回青年部定期大会をけんせつ

午前中は総括と方針提案を行ない、昨年度の60周年事業で各支部が活動を活性化させた教訓のうえに立って「中期3カ年計画（活動家の倍増、部員数の増加、全支部の青年部確立）」やサマーキャンプを提案しました。また、板橋、三鷹武蔵野、杉並、狛江支部から議案を補足する形で活動経験報告がありました。



分散会で活発に討議

午後には8つの分散会で各支部の経験交流や仕事に対する要求など討議を行ないました。方針をすすめるために全ブロックの四役選出を会場全体で確認、方針やスローガンを拍手で承認して、最後に五

【台東・主婦・遠藤知子記】3月8日19時よりの日本教育会館にて国際女性デーが開催されました。参加者は700人でそのうち東京土建からは75人の参加でした。講演は

平和な日本アピール 国際女性デーに700人



主婦の会の仲間はタペストリーを持って平和を訴えました

「女性差別撤廃条約採択40周年」女性の人権 進歩する世界と埋没する日本」と題して弁護士で国連女性差別撤廃委員の前委員長林陽子さんが行ないました。各団体の交流の時には、私たち東京土建主婦の会は「平和な日本に」の手作りタペストリーを掲げてアピールしました。

集会后はみんなでヒカリものを身につけ、神保町から水道橋に向かって女性の訴えをしながらパレードを行ないました。沿道からがんばれ、という声援をいただきました。今日が集会の日でしたか？と声をかけられたり、集会に対する関心の一言にエールをいただきました。

【本部・古館秀哉記】2月28日3月1日に静岡県焼津市などで開催されたレキニデー日本原水協全国集会に、東京土建本部から上原教宣部長と古館書記が参加しました。1954年3月1日、ビキニ環礁水爆実験によって第五

福竜丸の乗員23人が被爆してから65年。この被爆から半年後に亡くなった乗組員の久保山愛吉さんの墓参り平和行進のあと行われた本集会には全国から1500人が参加。一昨年に国連で採択された核兵器禁止条約について、批准国が

22カ国（批准50で発効、調印国は70）に広がっていることが報告され、「核兵器のない世界をきりのひらく正念場」としてヒバクシャ（核兵器廃絶）国際署名の取り組み強化などが訴えられました。

また、自然エネルギーへの転換を考える分科会では原子力発電は事故コストなどを含めると火力・水力発電より発電原価が高いことなどが報告されました。

シニア 落語調に憲法学ぶ 次世代継承を旺盛に

【本部・早川智記】2月14日にけんせつプラザ東京でシニア友の会第18回定期総会が行なわれ、35支部106人の仲間が参加しました。今回は趣向を変え、八法亭みややっこさんを講師に迎えて落語調に憲法を学びました。

昨年度の取り組み、情勢の特徴、今年度の重点が承認された。本年度の重点が承認された。本年度の重点が承認された。

【本部・早川智記】2月14日にけんせつプラザ東京でシニア友の会第18回定期総会が行なわれ、35支部106人の仲間が参加しました。今回は趣向を変え、八法亭みややっこさんを講師に迎えて落語調に憲法を学びました。

【本部・早川智記】2月14日にけんせつプラザ東京でシニア友の会第18回定期総会が行なわれ、35支部106人の仲間が参加しました。今回は趣向を変え、八法亭みややっこさんを講師に迎えて落語調に憲法を学びました。

【本部・早川智記】2月14日にけんせつプラザ東京でシニア友の会第18回定期総会が行なわれ、35支部106人の仲間が参加しました。今回は趣向を変え、八法亭みややっこさんを講師に迎えて落語調に憲法を学びました。

【本部・早川智記】2月14日にけんせつプラザ東京でシニア友の会第18回定期総会が行なわれ、35支部106人の仲間が参加しました。今回は趣向を変え、八法亭みややっこさんを講師に迎えて落語調に憲法を学びました。



いつもより回っています (総会終了後の懇親会で)

主婦 要求実現の先頭に 後継者も育てていく

【西多摩・主婦・小野房子記】第53回主婦の会総会を2月16日に188人が参加し、けんせつプラザ東京で開催しました。学習会は「仕事とくらしを守る運動を家族ぐるみですすめよう」と題して熊切健二組織担当専従常任中執の講義でした。レジュメに伊藤清元委員長から主婦の会第13回総会にあてた手紙が載せてありました。一部抜粋します。「いつの時代にも生活を支える切実な要求実現の闘い

の先頭に立ってきたのが女の闘いの歴史であります」「要求実現勝利と幸せの道をほげましあい助け合って強く生き抜いて歩んでいってくださ

は次の皆さん。会長・塩野操(大田)、副会長・遠藤知子(台東)、小野瀬有香(江東)、小野房子(西多摩)。事務局次長・岡村恭代(北)、相楽由美子(荒川)。



学習に集中して思いを新たに

は次の皆さん。会長・塩野操(大田)、副会長・遠藤知子(台東)、小野瀬有香(江東)、小野房子(西多摩)。事務局次長・岡村恭代(北)、相楽由美子(荒川)。



開会のあいさつをするイムさん

65年目のビキニデー ヒバクシャ署名の推進を

【本部・古館秀哉記】2月28日3月1日に静岡県焼津市などで開催されたレキニデー日本原水協全国集会に、東京土建本部から上原教宣部長と古館書記が参加しました。1954年3月1日、ビキニ環礁水爆実験によって第五

22カ国（批准50で発効、調印国は70）に広がっていることが報告され、「核兵器のない世界をきりのひらく正念場」としてヒバクシャ（核兵器廃絶）国際署名の取り組み強化などが訴えられました。

また、自然エネルギーへの転換を考える分科会では原子力発電は事故コストなどを含めると火力・水力発電より発電原価が高いことなどが報告されました。

また、自然エネルギーへの転換を考える分科会では原子力発電は事故コストなどを含めると火力・水力発電より発電原価が高いことなどが報告されました。

現場から現場変える イム会長が熱く訴える

【本部・賃金対策部】2月17日、33支部109人のPAL仲間が参加し、PAL第14回総会を行ないました(来賓、書記を含めて全体130人参加)。 昨年度、PALは首都圏組合とともに、新国立競技場や丸の内3-2(丸の内二重橋ビルディング)現場宣伝に取り組みました。開会あいさつでイム会長は、これにふれ、当日の提起「現場の声・実態を集めよう。PALの原点と役割を改めて確認し、資本従事者を組織し、現場から現場を変えよう」に先立ち、「PALの原点回復」を熱く訴えました。 分科会(大手セネコン、中堅セネコン、サブコン、住宅では、「8階建て解体工事現場。トイレが1階しかなく、使えない時は、隣のパチンコ屋、コンビニに行けと言われた」など率直な意見が出ました。 新年度、引き続き3つの重点(オリパラ従事者掘り起し、大手建設住宅企業交渉への参加・情報収集、公契約条例学習会開催)を追求し、PAL運動を前進させることを確認して閉会しました。